第Ⅱ章

東京を緑で囲む

～東京緑地計画と防空～

関東大震災の復興都市計画事業が紆余曲折を経ながら進み、東京市郊外へ住宅地の開発が加速しました。さらに、郊外への工場集積が顕著となり、ますます東京は過大都市化していきました。

こうした状況から東京市域を超えて進む市街地化に対応するために市域を拡張し、無秩序な開発を抑制しようとする「東京緑地計画」も検討されました。東京を緑で囲むことで、住宅や工場の増加による都市化の拡大を防ごうと試みたのです。

また、戦争への備えのなかで「防空空地帯」の指定が行われました。平時には、空地は住民の体力向上のための公園・運動場、農業生産のための農地として用いられ、空襲時には防火帯として機能しました。東京緑地計画の理念を継承し、市街地の拡大を抑える役割も期待されています。